

## 教科連携によるプレゼンテーションの指導実践

藤本 裕美子・内野 智仁

プレゼンテーション能力については、社会人として実践的な力の育成が求められており、学校教育の中でも重視されている。しかし、専攻科に在籍する生徒は、形式的にはそのスキルを身につけてはいるものの、内容を伝える手段として活用するまでには至っていない。2年間という限られた教育課程の中で確実にその力を育むために、教科を超えた指導実践を行った。複数の教員が情報交換をしながら指導を積み重ねることで、基本のスキルが向上し、内容の深まりも示唆された。

キー・ワード：教科連携 社会生活 プレゼンテーション

### 1 はじめに

文部科学省（2010）は、国語の指導目標について「社会人として必要とされる国語の能力の基礎を確実に育成することを重視して」いる。また、そのために「学校生活にあつては、その生活全体の中で言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実するよう努めることが大切であり、それには学校全体の共通理解が必要」と述べている。現在、専攻科A科では、専門教育が主な教育内容となるため、国語の授業時数が極めて少なく、上記の目標を達成されるには他の教育活動との連携が欠かせない。

プレゼンテーション能力の育成は、企業によっては職場体験実習でも取り入れられており、実践的な力が求められていることは明らかである。現行の学習指導要領でも重視されており、専攻科段階では入学時にすでに小学校や中学校段階で学びを積み重ねてきた成果がうかがえる生徒が多く見られるようになった。しかし、「形」としてプレゼンテーションに仕上げることはできても、それが実際に相手に伝える効果的な「手段」になり得ているかという点では疑問が残る。

プレゼンテーションを重点的な指導内容として扱っている時間としては国語総合Ⅱの「プレゼンテーション」の単元と社会生活の「自己表現」の単元が挙げられる。それぞれの単元を担当する教員が情報

交換及び課題検討し、効果的な指導のあり方を見いだしたいと考え、実践に至った。

### 2 実施目的

- (1) 社会人として必要な国語の能力の基礎として、効果的なプレゼンテーションの力を育成する。
- (2) 専攻科1年時に身につけてきた情報のスキルや著作権の知識など、学んだことを活かして活動する態度を育成する。
- (3) 自分の障害について理解し、周囲に理解や支援を求めることができるような力を育む。

### 3 生徒の実態

#### (1) 対象生徒

平成X年度入学生（A科7名。B科3名）を対象に実施した。国語総合Ⅱは各科ごとのグループ別学習であるが、社会生活は2科合同授業として展開している。今回は、A科7名を中心に報告する。

#### (2) 指導前の生徒の実態

平成X年度の3月、生徒会主催で「プレゼンテーション大会」が行われた。実施前は、「生徒会活動なのに、なんでこんな行事があるんだろう?」「来年はなくていい」という発言が見られたが、2年生の発表との違いを目の当たりにし、「先輩の貫禄を見せつけられたような、すばらしいプレゼンだった」という感想が見られるほど、刺激を受けた様子が観察さ

れた。実際、1年生が作成した生徒の成果物は、スライドの文字情報やアニメーションが多く、聞き手としてはスピーチに集中できないという印象を受けた。

### (3) プレゼンテーションのスキル

共通専門科目「情報デザイン」の学習を中心に、図や写真の挿入、アニメーションの設定などを含むPower Pointを用いたスライドの作成の基礎的技能を習得した。

著作権については、国語総合Ⅰのレポートの学習で基本的な知識を学び、他の授業の学習の中で実践を積み重ねてきた。

## 4 指導の流れ

以下に、指導の流れを示す。

### 第1次〔国語総合Ⅱ〕・・・2時間

- ・発表の資料を工夫する
- ・和語・漢語・外来語
- ・2年生のプレゼンから学ぶ

### 第2次〔社会生活〕・・・4時間

- ・プレゼンテーションとは何か
- ・プレゼンテーション実習
- ・プレゼンテーションの形式と流れ
- ・プレゼンテーション演習

### 第3次〔文書デザイン〕・・・1時間

- ・プレゼンテーションに関する用語

### 第4次〔国語総合Ⅱ〕・・・16時間

- ・プランニングシートの作成
- ・スライドとノートの作成
- ・発表練習（相互評価・リハーサル）
- ・発表
- ・教師によるプレゼンテーションの発表
- ・振り返り

## 5 第1次 国語総合Ⅱの指導

1回目の授業では、スライド作成のポイントを指導した。中学校の指導内容である「発表資料の工夫の仕方」を理解させるために、Fig.1とFig.2を示し、どちらがより聞き手にとってわかりやすいスライド

か挙手で答えさせた。10名中4名（A科B科各2名）の生徒はFig.1のスライドの方が良いと回答した。

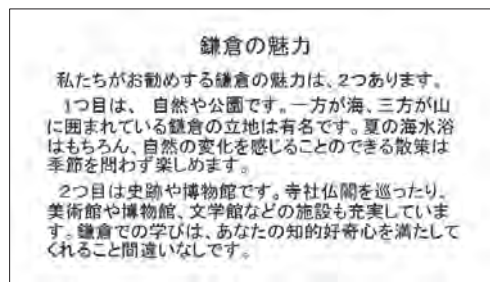


Fig.1 話す内容を記しただけのスライド



Fig.2 強調したいことだけを記したスライド

授業では、「どちらが見やすいか」という主観を問う発問だったため、Fig.1を選んだ生徒の回答を否定はしなかったが、プレゼンテーションで大切なこととして、次の2点を挙げた。

- ・視覚的な資料を提示しつつも、「語り」に注目させること。
- ・提示資料は瞬間的に情報を受信できるようにし、語りに集中できるゆとりを聞き手に持たせること。

生徒の中には、情報保障の文字提示と混同している様子も見られたため、字幕提示とプレゼンテーションの提示資料の性質の違いを補足説明した。また、上記の2点を実現させるためには、語彙の性質としてスライドには漢語が有効で、語りには和語が有効であること、箇条書きや図を用いると有効であることを説明した。

2回目の授業では、昨年度自分たちが良いと感じた先輩のプレゼンテーション大会の発表をビデオ視聴し、実際に1時間目に学んだことが活かされていることを確認させた。授業後の生徒の記録には、「先輩の発表ムービーを見て、昨日と今日学んだことを活かして発表されていて、私たちも先輩を見習っていい発表ができるようになりたいと思いました。」

「改めて先輩のプレゼンを聞いて、スライドは簡潔に、スピーチは緩急をつけていて、聞いていて飽きないプレゼンだなということを実感しました。今年は上手にプレゼンできるようにしていきたい」など、身近な先輩が学びの目標として設定され、意欲に結びついている様子が見られた。

## 6 第2次 社会生活の指導

1 時間目の授業では、魅力的なプレゼンテーションの条件 (Fig.3) を説明し、ストーリーを組み立てるポイントを押さえた。

最新の研究で、『魅力的なプレゼンテーションの条件』が明らかにされつつあるらしい[19]。

1. あなたの「ストーリー（体験・経験など）」を語ることが、発表を魅力的にする
  - ・聴衆が「なるほど」と共感を書えやすくなる
  - ・伝えたい内容が聴衆の頭に入りやすくなる
2. ストーリーを聴衆のために組み立てよう
  - ・よく考えられたストーリーは、一般的な発表に比べて、説得力が35%、記憶に残る割合が21%と上昇する
3. 聴衆が集中して話を聞いていられる時間は平均5分以内
4. 第一印象を良くするには最初の15秒間が大切
  - ・発表の最初に、聴衆の関心をひく「言葉」や「演出（スライド、発表者の動き）」が必要

Fig.3 1 時間目の配付資料 1

また、ストーリーを魅力的にする「起承転結」を図と実際の例を用いて説明 (Fig.4) した上で、自分自身の体験や思い出を起承転結にあてはめて考えさせる演習を行った。発表時間を3分以内と設定し、ワークシートに記入させた。

<p>※「果物の地でも生れた一帯帯」(台湾のお店で、店員さんにお願いして新しいアイスを出してもらっただけの話)</p>				
<p>・最近の記憶の中で、一つ、思い出しているのがあまです。それは「マンゴーアイス」です。</p>	<p>・台湾で、デザートがいろいろ揃っていて、食べられるお店に入っただけのことです。そこには、とても美味し(ようなマンゴーアイス)が置いてありました。</p>	<p>・列に並び、心を離れて、マンゴーアイスに舌を触れたとき……、すでに食べ尽くさ、器が空っぽだったのです。</p>	<p>・並んで待てるが気持ちいいです。ただし、必要に果物、新しいアイスを出してもらいました。外国の地で、体が癒された瞬間でした。</p>	

Fig.4 1時間目の配付資料2

2 時間目の授業では、1 時間目の内容を押さえた上で、ストーリーを魅力的にするスライド作成のポイントを説明した (Fig.5)。

<p>1. ストーリーを魅力的に伝えるスライドとは</p> <p>× 話す内容を記しただけのスライド</p> <div data-bbox="925 398 1125 512"> <p>マンゴーアイス</p> </div> <p>最近の記憶の中で、一つ、思い出深いものがあります。それは「マンゴーアイス」です。</p>	<p>○ 強調したいことだけを記したスライド</p> <div data-bbox="1147 398 1347 512"> <p>マンゴーアイス</p> </div> <p>最近の記憶の中で、一つ、思い出深いものがあります。それは「マンゴーアイス」です。</p>
<p>・良い点 話す内容が全部記してあるので後からでも理解できる</p> <p>・悪い点 観客が興味を持ちにくい。スライドに目が集まる。</p> <p>(まとめ) ・魅力的な発表は、観客に良い文章を読ませたりしない。見て一瞬で理解できる内容にしよう。 ・スライドはイメージしやすくする「おまけ」(付加価値)であるべき。</p>	<p>・良い点 観客が興味を持ちやすい。発表者の話に注目が集まる。</p> <p>・悪い点 スライドだけでは、何を伝えたいのかわからない。</p>

2. 余計な「デザイン・写真・文章」は、邪魔になる(スライドで見せる情報は厳選すべき)

<p>× PowerPointの「デザイン」は余計な装飾が多い</p> <div data-bbox="925 712 1125 797"> <p>マンゴーアイスが入った容器を見たそのとき・・・</p> </div>	<p>○ 文章だけのスライドで強調するテクニック</p> <p>すでにアイスの容器は、</p> <p>からっぽ だった</p> <div data-bbox="1147 712 1347 797"> <p>マンゴーアイスが入った容器を見たそのとき・・・</p> </div>
--	---

(まとめ)  
「見たい目」も大切だが、「中身」で勝負しよう。「中身」で強調したいところをスライド化しよう。  
・ストーリー (起・承・転・結) の中で、特に強調すべきは「起」と「転」。

Fig.5 2時間目の配付資料

国語総合Ⅱの内容で学んだことを、他の教員が説明することにより、生徒はより実感としてスライドをシンプルに作成することの重要性を理解することができた。

演習課題では、前回の授業を踏まえてストーリーを起承転結で書かせ、強調したいところに赤丸を付けさせた (Fig6)。スライドの下書きを終えた生徒から、実際に Power Point でスライドを作成させた。

[illegible]

Fig.6 2時間目の生徒のワークシート

授業の感想として、「強調したいところがちゃんと出ていて、とても分かりやすい。スライドもシンプルになって、とても見やすい。」と学びの成果を実感している様子が見られた。



3時間目は、「聴覚障害者の真実」をテーマに、3分間の持ち時間で2週間後に発表することを課題とした。今まで学習したことを確認し、同じ形式のワークシートで展開とスライドの下書きをさせた上でPower Pointを用いて作成させた。授業時間に終わらなかった作業は、各自で進めることとした。

4時間目に、発表をさせた。社会生活はA科B科の合同授業であるため、10名の生徒を5名ずつの2つのグループに分けて行った。1つのグループは社会生活担当、もう1つのグループは国語総合担当の教員が立ち会った。生徒にも評価させ、そのフィードバックはGoogleフォームを用いて即時に集計できるようにした。生徒の評価は次の2点である。

- ・ グループ内で一番良い発表をしたと思う人を選んでください（1人だけ）
- ・ 1番良い発表だと思った理由を入力してください。

10名中8名の生徒は、シンプルなスライド作成を意識している様子がうかがえた。生徒の投票でも、各グループで1位になった生徒はスライドが簡潔（Fig.7）で、ジェスチャーを有効に用いていることが高く評価されていた。また、自分だけが体験したストーリーが盛り込まれている点にも魅力を感じたという生徒の意見があった。一方で、2名の生徒（1名はB科）は文字情報が多く、簡潔なスライドが有効であることは理解していても、作成する際にポイントが絞れていない様子がうかがえた（Fig.8）。

指導者からのまとめは社会生活担当が生徒の意見を引き出しながら行った。「手段」としてシンプルなスライド、ジェスチャーや実物の提示は有効であり、「内容」としては自分の経験や気持ち、最近の出来事が聞き手を惹きつけ、説得力のあるプレゼンになるということが実感として得られたようである。

2つのグループに分かれた活動だったため、お互いに見られなかった発表を見たいという意見も出た。時間の制約で、授業時間内では行えなかったため、国語総合Ⅱで継続して行い、今回の反省を踏まえて学習を継続していくことを生徒と確認した。



Fig.7 1位に選ばれた生徒のスライド例

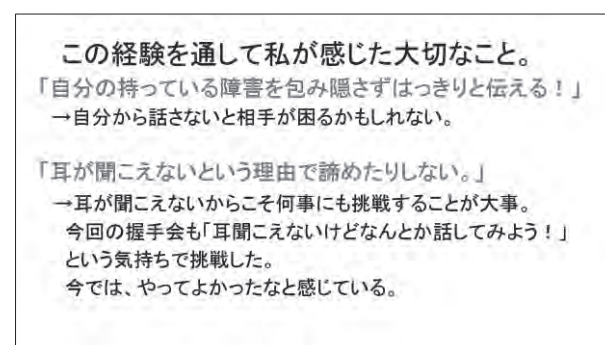


Fig.8 話す内容を全て記した生徒のスライド例

## 7 第3次 文書デザインの指導

文書デザインの授業では、ビジネス文書検定1級で出題されるプレゼンに関する用語についての学習を行っている。Y年度は、6月に検定対策として用語の説明をする授業を行った。国語総合Ⅱでは、その学習した語彙を実際に扱い、活用語彙に高めることを指導の目標にした。

## 8 第4次 国語総合Ⅱの指導

第1次から第3次までの学習踏まえたプレゼンテーションの単元を設定した。スライドの作成からスピーチの練習まで、できる限り授業時間の中で行うことができるように指導計画を立てた。

### (1) プレゼンテーションの準備

始めに、プランニングシートを作成させた。項目をTable1のように提示し、聴衆分析と構成を考えさせた。授業記録には、「私はプランニングシートの聴衆分析が分からず苦労しました。でも、先生が詳しく教えてくださったので、理解できました。それをパワーポイントでどう発表していくのかが大事な

で、それを考えるのが難しかったです」という感想が見られた。

Table1 プランニングシートの内容

項目	内容
テーマ	自分の障害について説明する
目的	必要な支援を得ることができるようになる
日時	11月13日(月)
場所	演習室1
持ち時間	5分
聴衆分析	(会社の状況で考える)
構成	

プランニングシートの作成が終わった生徒から、スライドを作成させた。第2次では文章が多かった生徒も、具体的にポイントとなる用語を考えさせることを繰り返し行うことにより、図や単語で簡潔に作成することができるようになった (Fig.9)。



Fig.9 Fig.8と同じ生徒が作成したスライド例

完成した順にリハーサルを行った。リハーサルの学習の流れは次の通りである。

- ・授業者の前で本番とように、スライドをプロジェクタで投影しながら発表する(同時にビデオ撮影)。
- ・自己評価を述べる。
- ・授業者からのアドバイス受ける。
- ・発表のビデオを視聴する。
- ・スライドとスピーチ原稿を修正し、練習する。

全員のチェックが1回終わった後からは、生徒同士でリハーサルをし、相互にアドバイスする活動を取り入れた。第1次の授業で配付したプリントを見せながら「スピーチの用語をもっとわかりやすいこ

とばに変えた方が良い」と指摘したり、話すスピードについて授業者から指摘された「自分が思っているよりも聞き手は早く感じる」という点を他の生徒にアドバイスしたりする生徒の姿も観察された。

## (2) 生徒の主なつまづき

構成の段階では気にならなくても、実際にリハーサルをしてみると目的から外れている印象を受ける発表が見られた。主な要因としては、社会生活で作成させたプレゼンのテーマと今回のテーマが類似していたということが考えられる。同じ聴覚障害をテーマとしていても、目的が異なれば内容も異なっていることを伝え、プランニングシートを用いて何のためにプレゼンを行うのかを考えさせた。その日の授業記録には、「前半があまりにも長すぎて、目的の話に入るのに時間がかかってしまった。本来の目的を確認し、もう1度スライドを見直し、次回のリハーサルに臨みたい」と、原因をしっかりと分析している様子うかがえた。

生徒のリハーサル時の傾向として、依頼しているというよりは、指導しているような印象を受けるものが多かった。これは、生徒が参照している主な資料が聴覚障害の理解啓発を目的とするものだったことが起因していると考えられる。社会人1年目の立場の者が目上の人に理解を求めていくにはどのような言い回しが適切なのかを考えさせ、表現例を示しながら発表原稿を作成させるようにした。

## (3) 発表とまとめ

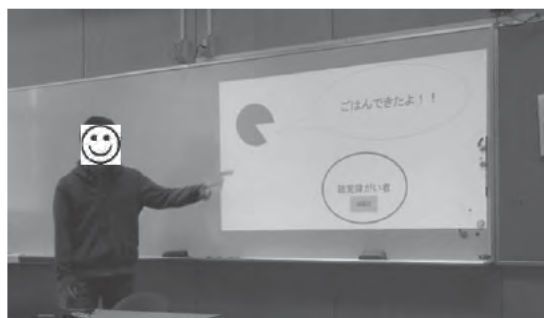


Fig.10 発表の様子

第2次と同様に、発表には社会生活担当者も加わった。国語総合担当と一緒に創り上げてきた成果を発表する場に、他の教員が入ることで緊張感を持た

せるようにした。聴衆分析を確認した上で、各自が発表し、社会生活担当者からの講評を行った。

良かった点としては2点が挙げられた。

- ① 依頼をするときに「～の点は〇つあります。」と数を示して話をするとうわかりやすいこと。
- ② 比較すると違いが明確になること。

②については、国語総合Ⅱの授業で意図的に指導したわけではないが、生徒の中で補聴器を未装用の状態と装用時の状態、あるいは聴者の聞こえの状態と補聴器を付けた聴覚障害者の状態を比較した発表が数多く見られていた点が高く評価された。

一方で、より具体性を高めていくことが課題として挙げられた。「ゆっくりはつきり話す」とは、どういうことなのか曖昧だった点が指摘された。自分にとって正確に情報が入る方法を提示できるよう、さらに工夫を重ねていくことを確認した。

## 9 成果と課題

### (1) プレゼンテーションのスキル

指導を重ねるにつれて、生徒たちは少しずつスライドの作成時には強調したいことだけを掲載することを心がけるようになった。形式的なことに制約をかけることで、本当に伝えたいことは何かを考えるようになり、内容への深化も見られるようになった。しかし、その学習したスキルを他の場面に転移転用できるところまでには至っていない。今後は他の教員とも連携し、さまざまな場面での指導を重ね、定着を図っていくことが必要である。

### (2) 既習事項の活用

本単元を展開するにあたり1年時に学んだPower Pointの作成スキルや著作権について、生徒たちが学んだことを活かしているかどうか評価しながら進めていくことを意識した。特に、著作権については1年時に国語総合Ⅰで重点的に学習したものの、他教科ではあまり意識されない様子も観察されていた。今回の取り組みでは、社会生活担当者の作成資料にも参考資料のURLを明記し、引用の際のルールを確認することで生徒の意識付けが適切に行われた。既習事項について教員間で共通認識を持ち、

それらを踏まえた指導を展開していく体制作りの推進を今後も進めていきたい。

### (3) 障害理解

プレゼンテーションの活動を通して、自分の障害の状態について考えたり、必要な支援を得るための方法を検討したりする機会を自然に設けることができた。最初は他のインターネット資料からやみくもに引用していた生徒も、「その支援、本当にあなたに必要なか？」と問いを投げかけることにより、自分の障害の実態と支援について考えるようになった。自己の障害認識を深めるという点からも、この単元は有効であったと考えている。しかし、資料として聴覚障害について説明されているものは、文献・インターネットともに、どちらかといえば障害理解を権利として求めるろう者自身や、情報保障担当者などが語るものが多い。語り手は講師として資料を作成しており、入社したばかりの社会人が会社に理解を求めるために語る内容としてはやや不適切なものであると感じた。聴衆分析とともに語り手の立場も意識させること、目上の人に対して理解を求める観点から自分の障害を説明するためのノウハウを蓄積していくことが大切である。適切なフレーズ集など、さらに教材の開発をしていきたい。

## 10 まとめ

2年間という限られた時間の中で確かな学力を身につけさせるためには指導内容の精選が欠かせない。教科を超えた連携は、そのあり方として有効な手段の1つと考えられる。今後は評価の観点や基準、共有の教材等の作成も進め、指導の改善に努めたい。

### 【参考文献】

文部科学省(2010), 高等学校学習指導要領解説 国語編,

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1282000\\_02.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1282000_02.pdf)

(最終アクセス 2018/01/09)